

平成29年度 体罰等実態把握調査について

1 調査の内容・方法

(1) 調査の趣旨

体罰の根絶に向けて、体罰や体罰の疑いがあるような事例に対しても見逃さず迅速に対応するため、都内公立学校における実態を的確に把握する。

(2) 調査対象

区市町村立及び都立学校全 2,161校の校長、教職員、児童・生徒全てを対象に調査を行った。

(3) 調査内容

平成29年度に発生した体罰、不適切な指導、暴言等及び行き過ぎた指導(以下「体罰等」という。)又はその疑いのある事案の実態

(4) 調査方法

教職員・・・校長による聞き取り調査 児童・生徒・・・質問紙調査及び聞き取り調査

(5) 調査対象期間

平成29年4月1日(日)～平成30年3月31日(土)

2 報告数

(1) 学校別報告数

校種別の内訳	小学校		中学校		小計		高等学校	特別支援学校	都合計
	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区			
学校設置数	1,282	20	625	10	1,907	30	192	62	2,161
本調査へ報告のあった学校数	133	3	110	3	243	6	47	9	299
本調査への報告数(単位:件)	238	4	207	6	445	10	89	24	558

(注)区立・都立の中等教育学校6校については、前期・後期課程をそれぞれ中学校・高等学校に区分している。
義務教育学校については、前期・後期課程をそれぞれ小学校・中学校に区分している。

(2) 申告者別報告数 (単位:件)

校種別の内訳	小学校		中学校		小計		高等学校	特別支援学校	都合計
	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区			
教員本人	58	3	71	2	129	5	29	9	167
他の教員	24	0	25	0	49	0	22	13	84
児童・生徒本人	122	0	107	4	229	4	61	10	300
他の児童・生徒	89	0	74	0	163	0	31	14	208
保護者	39	1	48	0	87	1	5	10	102
地域住民	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	332	4	325	6	657	10	148	56	861

(注)一つの事案につき複数の報告があるため、(1)の報告数の合計とは一致しない。

3 報告の内容

【体罰の有無】

(※校数は延べ数)

分類		小学校				中学校				高 29年度	特 29年度	都合計	
		28年度		29年度		28年度		29年度					
		東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区				
①体罰	人数	14	0	3	0	15	0	10	0	6	3	22	
	校数	14	0	3	0	15	0	10	0	6	1	20	
②不適切な行為	ア 不適切な指導	人数	41	4	34	1	45	1	37	2	14	5	90
		校数	40	3	33	1	42	1	29	1	13	4	79
	イ 行き過ぎた指導	人数	7	0	2	0	5	0	4	0	0	0	6
		校数	5	0	2	0	5	0	3	0	0	0	5
	ウ 暴言等	人数	43	3	43	3	59	0	60	0	16	4	123
		校数	41	3	37	3	51	0	53	0	14	3	107
③指導の範囲内	人数	68	7	80	0	41	0	49	3	26	6	161	
	校数	52	5	58	0	32	0	38	2	21	4	119	
④非該当(適切な行為・正当行為・事実誤認等)	人数		1		0		0		1				
	校数		1		0		0		1				
合計	人数	173	15	162	4	165	1	160	6	62	18	402	
	校数	152	9	133	4	145	1	131	4	54	12	330	

【備考】(東京都教育委員会体罰分類基準)

①体罰——懲戒のうち、教員が、児童・生徒の身体に、直接的・間接的に、肉体的苦痛を与える行為

②不適切な行為

ア 不適切な指導——児童・生徒の身体に、肉体的な負担を与える程度の、軽微な有形力の行使

【例】おでこを弾く(デコピン)、手をはたく(しっぺ)、小突く、胸倉をつかんで説教する

イ 行き過ぎた指導——運動部活動やスポーツ指導において、児童・生徒の現況に適合していない過剰な指導

ウ 暴言等——教員が、児童・生徒に、恐怖感、侮辱感、人権侵害等の精神的苦痛を与える不適切な言動

【例】罵る、脅かす、威嚇する、人格(身体・能力・性格・風貌等)を否定する暴言、馬鹿にする集中的に批判する

③指導の範囲内——注意喚起や指導を浸透させるためにやむを得ず行われた児童・生徒の身体に、負担を与えない程度の、極軽微な有形力の行使 【例】腕をつかんで連れて行く、頭を押さえる(社会通念上妥当な範囲に限る。)

4 体罰の内容

(1) 行為者別の体罰の状況

(※校数は延べ数)

校種別の内訳		小学校				中学校				高 29年度	特 29年度	都 合計
		28年度		29年度		28年度		29年度				
		東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区			
教職員	人数	13	0	3	0	12	0	9	0	6	3	21
	校数	13	0	3	0	12	0	9	0	6	1	19
外部指導員	人数	1	0	0	0	3	0	1	0	0	0	1
	校数	1	0	0	0	3	0	1	0	0	0	1
卒業生・上級生等	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	校数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	人数	14	0	3	0	15	0	10	0	6	3	22
	校数	14	0	3	0	15	0	10	0	6	1	20

(2) 場面別の体罰状況

(※校数は延べ数)

校種別の内訳		小学校				中学校				高 29年度	特 29年度	都 合計
		28年度		29年度		28年度		29年度				
		東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区			
授業等の教育活動中	人数	14	0	3	0	7	0	8	0	5	0	16
	校数	14	0	3	0	7	0	8	0	5	0	16
部活動中	人数	0	0	0	0	8	0	2	0	1	3	6
	校数	0	0	0	0	8	0	2	0	1	1	4
合 計	人数	14	0	3	0	15	0	10	0	6	3	22
	校数	14	0	3	0	15	0	10	0	6	1	20

(3) 体罰の態様

(※校数は延べ数)

校種別の内訳		小学校				中学校				高 29年度	特 29年度	都 合計
		28年度		29年度		28年度		29年度				
		東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区			
たたく		9	0	2	0	11	0	3	0	4	1	10
殴る		2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
物でたたく、物で殴る		0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
蹴る		2	0	0	0	1	0	1	0	2	0	3
投げる、転倒させる		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
たたく・殴る及び蹴る等		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
物をぶつける		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		1	0	1	0	2	0	3	0	0	2	6
合 計		14	0	3	0	15	0	10	0	6	3	22

(4) 児童・生徒に傷害を負わせた事案 (単位:人)

傷害の種別	小学校				中学校				高 29年度	特 29年度	都 合計
	28年度		29年度		28年度		29年度				
	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区			
あざ・内出血等	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
鼻血	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
口内出血	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
擦過傷・切り傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯牙破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼓膜損傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
捻挫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
火傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
合 計	2	0	1	0	2	0	0	0	0	1	3

(5) 体罰を行った件数別、対象人数別の状況場面別の体罰状況 (単位:人)

回	児童・生徒数		1人				2~4人				5人以上		都 合計 29年度
			28年度		29年度		28年度		29年度		28年度	29年度	
	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	東京都	
1件	24	0		0	3	0		0		0			
2~4件	1	0		0	3	0		0		1			
5件以上	0	0		0	1	0		0		1			
合 計	25	0		0	7	0		0		2			

(6) 体罰に対する認識

分類	人数	小学校				中学校				高 29年度	特 29年度	都合計
		28年度		29年度		28年度		29年度				
		東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区			
感情的になってしまった	人数	10	0	2	0	7	0	6	0	1	1	10
	校数	10	0	2	0	7	0	6	0	1	1	10
言葉でくり返し言っても伝えられなかった	人数	4	0	1	0	3	0	3	0	3	0	7
	校数	4	0	1	0	3	0	3	0	3	0	7
体罰とっていなかった	人数	0	0	0	0	1	0	1	0	2	2	5
	校数	0	0	0	0	1	0	1	0	2	1	4
人間関係ができているので許されると思った	人数	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
	校数	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
体罰を行う以外考えられなかった	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	校数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高い成績、成果の期待に応えようと思った	人数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	校数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
合計	人数	14	0	3	0	15	0	10	0	6	3	22
	校数	14	0	3	0	15	0	10	0	6	1	20

(7) 体罰に至る原因

分類	人数	小学校				中学校				高 29年度	特 29年度	都合計
		28年度		29年度		28年度		29年度				
		東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区	東京都	文京区			
態度が悪い	人数	4	0	0	0	5	0	0	0	1	0	1
	校数	4	0	0	0	5	0	0	0	1	0	1
指示に従わない	人数	5	0	1	0	3	0	3	0	4	0	8
	校数	5	0	1	0	3	0	3	0	4	0	8
知識・技能が求める水準に達しない	人数	0	0	0	0	5	0	0	0	0	3	3
	校数	0	0	0	0	5	0	0	0	0	1	1
意欲が求める水準に達しない	人数	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
	校数	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
問題行動を止めるため	人数	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	校数	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
その他	人数	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	6
	校数	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	6
合計	人数	14	0	3	0	15	0	10	0	6	3	22
	校数	14	0	3	0	15	0	10	0	6	1	20

5 体罰の根絶を図るための文京区教育委員会の取組

(1) 学校への指導

- ・合同校園長会及び小・中学校校長会での指導の徹底
- ・全小・中学校が体罰の根絶、指導の徹底について発信
- ・全校・園の管理職対象のヒアリング時に体罰根絶に向けた状況を把握し、指導の徹底について助言
- ・全小・中学校の教育指導課訪問時に、事例をもとに指導・助言

(2) 教職員研修の充実

- ・7月を体罰防止月間として、全小・中学校において服務事故防止研修を実施
- ・副校長研修、10年経験者研修、若手教員育成研修における「服務に関する研修」の充実
- ・教育課題研修会(夏季休業中)におけるアンガーマネジメント研修の実施
→校内で伝達講習を行い、全教職員に周知・徹底
- ・学校リスクマネジメント研修における「アンガーマネジメントに関する研修」の実施(3か年で全小中学校)

(3) 東京都教育委員会の啓発資料の活用

- ・東京都教育委員会体罰根絶映像資料「STOP! 体罰」(DVD)の活用(6月までに全教職員が視聴、研修)
- ・東京都教育委員会「体罰根絶に向けた総合的な対策」(部活動指導等の在り方検討委員会報告書)の活用

(4) 代表校園長会における協議

- ・体罰根絶、指導改善のための意識啓発策等の協議

平成29年度 体罰等実態把握調査の傾向

○平成29年度は、体罰は0件であった。

○「不適切な行為」では、「行き過ぎた指導」は平成28年度と同様0件だが、「不適切な指導」は、小学校では減少したが、中学校では、同様の件数が生じている。また、「暴言等」は、小学校では同数の件数が生じているが、中学校では、平成28年度と同様0件である。

